



鎮痙剤

# ブチルスコポラミン臭化物錠

10mg「ツルハラ」

薬価基準収載

類似品：ブスコパン錠



ブチルスコポラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」

## 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1)出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌（O157等）や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化，治療期間の延長をきたすおそれがある。〕
- (2)閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し，症状を悪化させることがある。〕
- (3)前立腺肥大による排尿障害のある患者〔更に尿を出にくくすることがある。〕
- (4)重篤な心疾患のある患者〔心拍数を増加させ，症状を悪化させるおそれがある。〕
- (5)麻痺性イレウスの患者〔消化管運動を抑制し，症状を悪化させるおそれがある。〕
- (6)本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

## 【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが，特に必要とする場合には慎重に投与すること)】

細菌性下痢患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

効能・効果，用法・用量，禁忌・原則禁忌等を含む使用上の注意の詳細はドラッグインフォメーションをご覧ください。

## 日医工株式会社

※禁忌・原則禁忌等を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意下さい。(詳細は添付文書をご参照ください。)

貯法	気密容器、室温保存	承認年月	2014年2月(販売名変更による)
使用期限	外箱、容器に表示	承認番号	22600AMX00134000
販売元	日医工株式会社	薬価収載	2014年6月
日本標準商品分類番号	871242	販売開始	2015年2月
製造販売元	鶴原製薬株式会社	再評価結果	1976年4月

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】 (1)出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌(O157等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕 (2)閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 (3)前立腺肥大による排尿障害のある患者〔更に尿を出にくくすることがある。〕 (4)重篤な心疾患のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 (5)痲痺性イレウスの患者〔消化管運動を抑制し、症状を悪化させるおそれがある。〕 (6)本剤に対し過敏症の既往歴のある患者	【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】 細菌性下痢患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕	組成 ブチルスコポラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」は1錠中ブチルスコポラミン臭化物10mgおよび添加物として乳糖水和物、結晶セルロース、カルメロース、メチルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、白糖、沈降炭酸カルシウム、アラビアゴム末、ヒプロメロース、マクロゴール6000、硫酸カルシウム、ポリオキシエチレン(105)ポリオキシプロピレン(5)グリコール、タルク、カルナバロウを含有する。 製剤の性状 ブチルスコポラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」は直径約6.5mm、厚さ約4.5mm、質量約150mgの白色糖衣錠である。	使用上の注意	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
				ドパミン拮抗剤 メトクロプラミド等	相互に消化管における作用を減弱するおそれがある。	本剤は消化管運動を抑制するため、ドパミン拮抗剤の消化管運動亢進作用と拮抗する。
【効能・効果】 下記疾患における痙攣並びに運動機能亢進 胃・十二指腸潰瘍、食道痙攣、幽門痙攣、胃炎、腸炎、腸疝痛、痙攣性便秘、機能性下痢、胆のう・胆管炎、胆石症、胆道ジスキネジー、胆のう切除後の後遺症、尿路結石症、膀胱炎、月経困難症	【用法・用量】 ブチルスコポラミン臭化物として、通常成人1回10～20mgを1日3～5回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	頻度不明		
				眼	調節障害、散瞳、閉塞隅角緑内障	
【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	消化器	口渇、腹部膨満感、鼓腸、便秘	
				泌尿器	排尿障害	
【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	精神神経系	頭痛、頭重感	
				循環器	心悸亢進	
【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	過敏症 <sup>注)</sup>	発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒症	
				注)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。		
【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	【(5)高齢者への投与】 一般に高齢者では前立腺肥大を伴っている場合が多いので慎重に投与すること。 【(6)妊婦、産婦、授乳婦等への投与】 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕 【(7)過量投与】 1)症状：過量投与した場合、口渇、眼の調節障害、せん妄、心悸亢進、血圧上昇等を引き起こす可能性がある。 2)処置：心血管系の症状が発現した場合は標準的な処置、呼吸痲痺の場合は挿管や人工呼吸、尿閉の場合は導尿を必要に応じて考慮すること。緑内障の場合は、眼科医などの適切な治療を受けること。また、必要に応じ、副交感神経興奮薬の投与および適切な支持療法を行うこと。 【(8)適用上の注意】 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)	安定性試験 最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、ブチルスコポラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。	
				【(5)高齢者への投与】 一般に高齢者では前立腺肥大を伴っている場合が多いので慎重に投与すること。 【(6)妊婦、産婦、授乳婦等への投与】 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕 【(7)過量投与】 1)症状：過量投与した場合、口渇、眼の調節障害、せん妄、心悸亢進、血圧上昇等を引き起こす可能性がある。 2)処置：心血管系の症状が発現した場合は標準的な処置、呼吸痲痺の場合は挿管や人工呼吸、尿閉の場合は導尿を必要に応じて考慮すること。緑内障の場合は、眼科医などの適切な治療を受けること。また、必要に応じ、副交感神経興奮薬の投与および適切な支持療法を行うこと。 【(8)適用上の注意】 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)		
【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(1)慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)】 1)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある。〕 2)うっ血性心不全のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 3)不整脈のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 4)潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。〕 5)甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。〕 6)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。〕 7)開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕 【(2)重要な基本的注意】 眼の調節障害等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。 【(3)相互作用】 併用注意(併用に注意すること)	【(4)副作用】 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 1)重大な副作用(頻度不明) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支痙攣、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 2)その他の副作用 以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。	取扱上の注意		
				包装	(PTP)100錠、1000錠	(バラ)1200錠

販売元  日医工株式会社  
NICHIKO 富山市総曲輪一丁目6番21  
<https://www.nichiiko.co.jp>

製造販売元  鶴原製薬株式会社  
大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

お問い合わせ先 お客様サポートセンター

☎ (0120) 517-215  
FAX (076) 442-8948